

シンポジウムSY2-1

日本臨床工学技士会による高気圧酸素治療 専門臨床工学技士認定制度のあり方

寺田直正

公益社団法人日本臨床工学技士会
高気圧酸素治療検定小委員会委員長
独立行政法人労働者健康安全機構
横浜労災病院 臨床工学部

【要旨】

高気圧酸素治療専門臨床工学技士（以下JACE専門技士）認定制度は、臨床工学技士の職能団体である公益社団法人日本臨床工学技士会が策定した認定制度であり、臨床現場における質の高い治療の普及と技術の向上・発展に寄与するとともに、患者の安全を確保することを使命としている。他の高気圧酸素治療に関する認定制度には、日本高気圧環境・潜水医学会が認定する「高気圧酸素治療専門技師（以下JSHUM技師）」と日本臨床高気圧酸素・潜水医学会が認定する「臨床高気圧酸素治療装置操作技師（以下JACHOD技師）」がある。この2つの認定制度は、高気圧酸素治療の技術水準の進歩と安全性の向上を図ることを目的としており、取得することで高気圧酸素治療装置の操作及び保守管理を行う技術に関して一定の能力をもつ者として認定されるため、高気圧酸素治療に従事する上でいずれかは必ず取得すべき認定資格であると考えるが、JACE専門技士認定制度は更に高い水準での、指導的立場で専門的治療の対応ができる能力（知識・技術・技能）を有する臨床工学技士の育成を目的としている。

今回、日本臨床工学技士会高気圧酸素治療検定小委員会委員長とJACE専門技士認定者の両方の立場から、JACE専門技士の現状、役割、問題点等について報告する。

【JACE専門技士資格取得の現状】

JACE専門技士認定資格取得条件としては、「臨床工学技士として認定申請領域の実務経験が5年以上あり、現在も従事していること」、「認定申請日から遡る5年間に要件を満たす単位を50単位以上取得していること」などと、他の認定制度より厳しいものとなっており、さらに認定試験においても正答率80%以上が合格ラインとなっており、取得する難易度は比較的

高いと言える。そのため認定資格取得者は2021年時点で18名と、JSHUM技師の266名、JACHOD技師565名と比べてもかなり少ない人数である。しかしながら、JACE専門技士においてもインセンティブは少なく、認定試験を受ける受験者数が少ないのが現状である。

【当院でのJACE専門技士の必要性】

当院は第2種装置を1基有しており年間1799件（2021年度）の治療を施行している。臨床工学技士2名が主に運用しており、専門医は不在籍である。専門医がいなくても各診療科の治療を施行する上で、医師への治療啓蒙や他院専門医との病診連携において、技士の専門的な知識・技術・技能が必要であるため、JACE専門技士認定資格取得の際に身につけた能力が活かせる環境である、当院のような専門医不在籍の病院には必要不可欠であると考えている。

【臨床工学技士と高気圧酸素治療】

高気圧酸素治療装置の操作は臨床工学技士の業務の1つであるが、臨床工学技士養成校での臨床実習の必須カリキュラムから外されるなど、臨床工学技士全体からみた高気圧酸素治療の立場は低下傾向にあると言える。その中でJACE専門技士のインセンティブ獲得は困難であり、インセンティブを獲得するには認定資格取得者が学術的な活動を続けていき、医師や学会など関連各所からの評価を得る他ないと考える。そのために学会などで学術的な活動を行っている技士こそJACE専門技士を取得し、今後のJACE専門技士ならびに高気圧酸素治療に携わる臨床工学技士の地位向上に寄与していただきたい。

【関連学会との関わり】

JACE専門技士には、運用を行う委員の他にも、試験問題作問者や高関者にJSHUM技師ならびにJACHOD技師、各学会の専門医も多く関わっている。より評価のある認定資格になるよう、今後も関連学会との関わりを深めていきたい。

【まとめ】

JACE専門技士は臨床工学技士に対する高気圧酸素治療の認定制度の1つであり、高気圧酸素治療のプロフェッショナルとしての臨床工学技士の働きが求められている。今後の高気圧酸素治療に携わる臨床工学技士の地位向上のために、JACE専門技士の認定取得人数の増加および認定資格取得者の活発な活動が必要である。